



発行責任者: 池田直樹(日本高齢者虐待防止学会理事長)
編集責任者: 高崎絹子

多々良先生を偲んで	1
多々良先生のご略歴	2
第9回神戸大会のお知らせ	2~4
理事会からの報告	5
編集委員会から	6
調査研究協力のお願い、会員の活動	7
事務局だより	8

学会HPアドレス: <http://japea.umin.jp>

平成24年6月発行

多々良紀夫先生のご冥福を心からお祈り申し上げます

多々良先生を偲び、先生の理念とご遺志を引き継ぐ

理事長 池田直樹

多々良理事長は昨年10月以降、新体制の準備を進めておられ、本年4月1日から新たに理事長に着任されました。私は多々良理事長からご指名頂き、多々良執行部に入って新体制の運営をお手伝いさせて頂くことになっておりました。

4月新たに発足した新体制が、今後基本的事項を確定し、7月の神戸大会に向けて準備を進めていく予定でした。その矢先の4月23日、先生は突然先立たれてしまわれました。

多々良先生が目指されていた学会の方向性は、医療・看護分野、社会福祉分野、そして法律分野など多様な専門職が参加しているというこの学会の特徴を踏まえ、それぞれの分野の特徴を生かしながら、あるいは相互の連携の中で、高齢者虐待を防止するための研究と実践を行うというものでした。この認識を引き継いで、改めて学会の執行部体制を組み直し、神戸大会を乗り切るべく学会員一丸となって全力で取り組んでいく必要があります。

私は以前、弁護士会の企画でアメリカの高齢者虐待防止活動の現状を視察するため、視察団の一員としてワシントンDCに行ったことがあります。その企画を多々良先生にぶつけたところ「OK!」の一言で、ワシントンDCの主だった機関に連絡して頂き、しかも一緒に視察団に加わって頂き、個々の訪問先を案内して頂きました。今でも鮮明に記憶しております。個々の訪問先での多々良先生の振る舞いは、まさに「ここが先生のホームグラウンド」というべきもので、各機関からフレンドリーに歓迎して頂きました。貴重な視察の機会を提供して頂き感謝します。

5月20日の臨時理事会で、私は多々良先生の後任の理事長に選任されました。「多々良先生のご遺志を引き継ぐ」という理事の皆さんの思いを受け止めさせて頂きます。私は法律実務に携わっておりますが、法学の分野、医療・看護の分野、社会福祉の分野の会員の方々のアドバイスを頂きながら、頑張っていきます。

最後に、多々良先生のメールでのハンドルネームは「tony tatara」でした。アメリカでは「Tony」と呼ばれていたのだと思います。その思いを踏まえて、最後に多々良先生にメッセージを送りたいと思います。

Dear Tony, We miss you so much.

We beg you light and instruct us forever !

安らかにやすみください。





【多々良紀夫先生のご略歴の紹介】

前淑徳大学総合福祉学部教授 Ph.D. in Social Work and Social Research.
(Graduate School of Social Work and Social Research, Bryn Mawr College
U.S.A.)

(多々良紀夫先生)

ブリン・マーカレッジ大学院講師(1972-1976)を経て、米国公的福祉協会研究調査部長(1977-1998)を務める。その間、米国高齢者虐待問題研究所(NCEA)所長(1988-1998)、国際社会福祉協議会米国委員会副委員長(1988-1992)および会長(1992-1997)等を歴任。1998年4月より淑徳大学教授となり、高齢者福祉論、国際福祉論等を担当するとともに、大学院にて研究者の育成に力を注がれ、2012年3月退官された。2007年には、高齢者虐待防止の領域で2006-2007年度に世界で最も顕著な業績を残した研究者または研究家に与えられる賞である「ロザリーS.ウルフ国際記念賞」を受賞した。世界で5人目の受賞者であった。ご逝去されるまで、アメリカ社会老年学会高齢者虐待研究分科会委員長、国際高齢者虐待防止機構(INPEA)アジア地域担当理事、日本高齢者虐待防止学会(JAPEA)理事長をはじめとする、多くの要職に従事されていた。

主な著書として、『An Analysis of State Laws Addressing Elder Abuse』(1995)、『Understanding Elder Abuse in Minority Populations』(1999)、『老人虐待ーアメリカは老人の虐待にどう取り組んでいるか』(1994)、『占領期の福祉改革ー福祉行政の再編成と福祉専門職の誕生』(1997)、『救援物資は太平洋をこえてー戦後日本とララの活動』(1999)、『アメリカのケースマネジメント実務基準と資格認定』(2000)、『高齢者虐待ー日本の現状と課題ー』(2001)、『長期ケアの満足度評価法ー利用者の声をよく聴くための実用的アプローチ』(2002)、『ドイツ介護保険ー仕組みと課題を探る』(2002)、『世界の高齢者虐待防止プログラムーアメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェー、ラテン・アメリカ諸国における取り組みの現状』(2004)、『イギリス・ドイツ・オランダの医療の介護分野の外国人労働者の実態』(2006)、『高齢者虐待の研究-虐待、ネグレクト、搾取究明のための指針と課題』(2008)、『子ども虐待・ネグレクトの研究ー問題解決のための指針と提言』(2010)、『家庭内暴力の研究-防止と治療プログラムの評価』(2011)がある。

(文責山口光治：淑徳大学教授)

第9回日本高齢者虐待防止学会神戸大会へのお誘い

大会長 白井キミカ (甲南女子大学 教授)

東日本大震災・原発事故から1年を経過しましたが、被災された方々や関係者の皆様のご苦労・ご心労を思いますと心が痛みます。神戸大会関係者一同、心よりお見舞い申し上げます。

また、このたびの多々良紀夫先生の急逝を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。神戸大会では、開会時の黙祷により哀悼の意を表し、思い出のお写真や、ご執筆の書籍等を展示した追悼コーナーを設けますので、ありし日の多々良先生を偲びたいと存じます。

現在、第9回日本高齢者虐待防止学会神戸大会の開催に向けて鋭意準備中ですが、神戸大会の最新のプログラムをお届けします。**会員でない方の当日参加も可能ですので、関心のある方をお誘いの上、多数のご参加をお待ちしています。**詳細については、ホームページ (<http://www.japea.jp>) 等をご覧ください。

なお、大会会終了後の親睦会は、キャンパス内では最も眺望のよい学生会館に会場を移して、夜のとばりに霞んだ神戸港を眼下に臨みながらお過ごしいただきます。演し物として、演奏者によって音色が異なるというクロマチックハーモニカ演奏と共に「認知症高齢者とダンス」を披露します。演奏者は昨年のハーモニカの世界組織「FIH」日本支部コンテストでグランプリを獲得し、ドイツでの世界大会ユース部門で第3位に輝いた高校生です。参加者の皆様にはサプライズも準備していますのでご期待ください。

第9回日本高齢者虐待防止学会(JAPEA)神戸大会プログラム

メインテーマ「共に支えあう虐待防止の地域づくり」

日時 2012年7月14日(土) 9:30~17:00

会場 甲南女子大学(〒658-0001 神戸市東灘区森北町6-2-23)

午前の部 9:30~12:30 (8:30~受付開始) (敬称略)

受付開始 8:30~ 甲南女子大学内バス乗り場前

開会の挨拶 9:30~9:50 912 教室
日本高齢者虐待防止学会理事長 池田 直樹(大阪アドボカシー法律事務所 弁護士)
黙祷 故多々良紀夫先生

大会長講演 9:50~10:30 912 教室
「医療依存度の高い高齢者への虐待予防」 臼井 キミカ(甲南女子大学 教授)

教育講演 I 10:30~12:00 912 教室
「市町村における高齢者虐待防止体制の強化と評価のあり方~第2弾 評価ガイドとシステムづくり」
講師 黒田 研二(関西大学 教授)
(指定発言者)
「大阪府の取り組み」
田中 園代(大阪府高齢介護室介護支援課)
「堺市における『簡単ツール』の利用とレビュー会議開催」
水田 美由紀(堺基幹型包括支援センター)
「レビューの取組みから見てきたこと」
水上 然(神戸学院大学 講師)

シンポジウム I 10:30~12:30 921 教室

「東日本大震災と高齢者の人権擁護」

座長 高崎 絹子(日本高齢者虐待防止学会前理事長)

柴尾 慶次(フィオーレ南海 施設長)

(シンポジスト)

「東日本大震災で、認知症高齢者はどうなったか」

吉川 悠貴(認知症介護研究・研修仙台センター研究主幹)

「高齢者施設と災害ー福島からの報告」

赤司 秀明(東日本国際大学 教授)

「被災地支援で、ニーズ変化を追う」

川井 太加子(桃山学院大学 准教授)

「阪神淡路大震災と東日本大震災からの学びと気づき」

岡本 和久(神戸市垂水区保健福祉部保護課長)

教育講演Ⅱ	12：00～12：30	912 教室
「セルフネグレクト状態にある高齢者への調査からみえたこと」		
座長 河野 あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）		
講師 高橋 義明（国際協力機構研究センター）		
昼食および休憩	12：30～13：20	
午後の部	13：20～17：00	
学会総会	13：20～13：50	921 教室
市民講座 第1部 (シンポジウムⅡ)	14：00～15：50	912 教室
「認知症高齢者の虐待を防ぐまちづくり」		
座長 津村 智恵子（甲南女子大学大学院看護学研究科教授）		
寺内 謙元（大阪府福祉部国民健康保険課 主査）		
(シンポジスト)		
「精神病院は認知症高齢者の受け皿か？施設と地域が抱える問題」		
柳 尚夫（兵庫県淡路県民洲本健康福祉事務所長）		
「中高年齢層の孤立・孤独死から見えてくるもの」		
吉田 太一（キーパーズ有限会社 代表取締役）		
「認知症高齢者をわが町で支える取組－経済的トラブルをきっかけに－」		
前田 小百合（三重県立志摩病院地域連携センター 課長）		
「徘徊する認知症高齢者をみんなで支える取組」		
馬場 朋文（福岡県大牟田市社会福祉協議会）		
一般演題発表	14：00～15：50	2 階ホール
市民講座 第2部 (講演)	16：00～16：50	912 教室
「心身が傷ついた人に対するバイオフィードバックによる癒し」		
座長 荒賀 直子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長）		
講師 辻下 守弘（甲南女子大学 教授）		
特別講演	16：00～16：50	921 教室
「高齢者虐待防止の取り組みにおける多様な弁護士活用法－人権擁護というスタンスから－」		
座長 白井 みどり（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）		
講師 池田 直樹（大阪アドボカシー法律事務所 弁護士）		
大会の総括と 閉会の挨拶	16：50～17：00	921 教室
日本高齢者虐待防止学会副理事長		
次回大会長挨拶		
懇親会	17：20～18：50	(会場:第1 学生会館 4 階)

＜大会参加費(当日参加費)＞ (事前申し込みは終了しました)

(会 員)	(非会員)	(学 生)	(シニア)	(懇親会費)
5,500 円	6,000 円	2,500 円	1,500 円	3,500 円

＜大会参加申し込みに関する連絡先＞

(〒658-0001 神戸市東灘区森北町6-2-23) 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科内
神戸大会事務局(臼井・佐瀬・鎌田・上村), FAX:078-413-3472、E-mail:suemura@konan-wu.ac.jp

～理事会からの報告～

平成 24 年度日本高齢者虐待防止学会理事会・事務局・委員会等の組織

理事長 池田直樹

- 平成 24 年 5 月 20 日の臨時理事会において、多々良紀夫先生のご逝去に伴い、日本高齢者虐待防止学会会則、及び選挙規定等に基づいて、新理事長、理事、理事会推薦理事が選出されました。
(以下、敬称略、順不同)

新理事長 : 池田直樹
新理事 : 柴尾慶次
理事会推薦理事 : 瀧澤利行 滝沢 香

- 平成 24 年度～平成 26 年度の新理事、監事は、以下のとおりです。

○池田 直樹 ○塚田 典子 ○津村 智恵子 ○山田 祐子 ○臼井 キミカ
○遠藤 英俊 ○柴尾 慶次 ○副田 あけみ ○高崎 絹子 ○松下 年子
○小野 ミツ ○瀧澤 利行 ○滝沢 香 □岸 恵美子 □服部 万里子
(○印：理事、 □：監事)

- 平成 24 年 5 月 20 日の臨時理事会において、池田理事長を中心に検討が行われ、副理事長、事務局長他、各委員会委員長等は以下のとおり選出されました。

理事長 : 池田直樹
副理事長 : 松下年子 遠藤英俊
事務局長 : 山田祐子
各委員会委員長

編集委員会	: 松下年子	広報委員会	: 高崎絹子
研究活動・国際活動推進委員会	:	組織拡大委員会	: 遠藤英俊
	: 塚田典子	会計委員会	: 柴尾慶次
法制度推進委員会	: 滝沢 香	庶務委員会	: 山田祐子

* 現在各委員会の委員については検討中です。会員の方の自薦・他薦をお待ちしています。

＜お詫び＞ニューズレター10号(平成23年11月発行)の評議員選挙結果の名前の一部に誤りがありました。お詫びして訂正します。 正 : 本田正宏 誤 : 本田正弘

～編集委員会から～ 学会誌「高齢者虐待防止研究」への投稿を募集しています

編集委員長 松下年子（横浜市立大学医学部看護学科）

日本高齢者虐待防止学会では、現在「高齢者虐待防止研究」を発行しています。研究報告・実践活動など、特に現場の第一線で活躍されている皆様の投稿をお待ちしています。原稿執筆の様式は、学会ホームページまたは学会誌の「執筆要項」をご覧ください。

平成 24 年 5 月の臨時理事会にて、池田新理事長のもと編集委員長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。日本高齢者虐待学会では設立以降、年 1 回の頻度で学会誌を発刊してまいりました。高齢者虐待とその防止に特化した最新の知見や動向、斬新な観点やモデル等を提示する「特集」「論壇」等、また、高齢者虐待に関してエビデンスに基づいた研究所見を提供する研究報告等、数多くの情報、論文を発信してきました。ちなみにエビデンスに基づく研究所見とは、科学的根拠を伴う事実や論考のことであり、信頼性や妥当性が保証された所見のことです。高齢者虐待の特質上、研究をすすめることには困難を伴うことが多いのですが、編集委員会の査読システムでは、研究論文について信頼性・妥当性が保証されているか否かということも審査基準の一つとさせていただいております。そしてこのような査読システムにのる論文、査読審査の対象となるのが、研究論文（査読を要する論文）です。ちなみに、これまでの「高齢者虐待研究」に掲載された研究論文数は 50 件を超えております。このような数字が意味するのは、ここ 10 年間本学会誌が確実に、高齢者虐待とその防止に関連したエビデンスを蓄積してきたということであると思います。

本学会は、学問領域の観点からは社会福祉学、法学、医学、看護学など複数の専門性を基盤としており、つまり学際的であり、かつ人という観点からは、臨床家、行政の方、教育者、研究者、さらに高齢者虐待に関心を持たれている一般の方々まで、幅広い層の会員より構成されております。したがって、そもそも構造的に、多角的で領域横断的な、かつ応用可能性や現場への還元性の高いエビデンスを生み出す土壌を有していると言えるでしょう。

新編集委員会では、今後、編集業務のさらなる効率化と査読体制の整備を図り、多くの最新情報と、エビデンスに基づいた研究知見を社会に提供していきたいと考えております。「できるだけ多くの知見を」という観点と、「できるだけエビデンスの高い知見を」という観点は、一見両立が難しい命題のようにも聞こえますが、実は、一定の手間と手続きを経ることで、一つの目標として統括することができます。「できるだけ多くの信頼性の高い知見を」とすることが可能になります。今後、会員の皆様のご協力を得ながら、鋭意取り組んでいく所存でございます。

なお、本年度より投稿やお問い合わせは以下にお願い致します。投稿される際は、学会のホームページや学会誌に掲載されている「投稿規定」「執筆要項」をご覧ください。

＜論文の投稿先＞：

株式会社 勁草書房 コミュニケーション事業部 梅澤桃子宛

〒112-0005 東京都文京区水道 2-1-1

TEL 03-3814-7114 FAX 03-3814-6904

E-mail japea@keiso-comm.com

＜投稿に関するお問い合わせ＞

横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科 松下年子研究室宛

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

TEL&FAX 045-787-2774 E-mail toshiko@yokohama-cu.ac.jp



「高齢者虐待ケースに潜む共依存問題に関する介入調査」ご協力へのお願い

朝日厚生事業団助成調査 企画責任者 松下年子（横浜市立大学医学部看護学科）

5月の朝日新聞に掲載されましたが、この度、本学会は「平成24年度 朝日新聞厚生文化事業団主催、厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援『高齢者への暴力防止プロジェクト助成』を受けることになりました。申請したテーマは「高齢者虐待における共依存問題に関する啓発プログラム」で、具体的に実施するのは、①共依存問題に関する啓発を目的とした講演会、研修会の実施とその評価、②高齢者虐待の共依存問題に関する事例収集および、それら事例への対応や方策の検討を経て「共依存を伴う高齢者虐待への対応」事例集を作成すること、の2件です。そこでまずは、講演会及び研修会の開催場所を選定していきたいと思っております。会員の皆様には是非、そのような主旨をもった講演会ないし研修会等を開催し得る場をご紹介下さいますようお願いいたします。講演会や研修会の参加対象者は、何らかの形で高齢者虐待防止活動にかかわっている方、高齢者虐待の問題に関心をお持ちの方となります。開催に必要な費用の全て、ないし一部を援助させていただきますので、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。連絡先は<〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部看護学科 松下年子、Email: toshiko@yokohama-cu.ac.jp、TEL&FAX: 045-787-2774 >です。

最後に、共依存について簡単に説明させていただきます。共依存とは、対人関係依存の一つで、他者を必要以上に、また不適切に世話することや干渉することを通じて自分の存在意義を見出そうとする傾向（対人関係のとり方や、言動）のことです。現場では、虐待されている高齢者が虐待する加害者（多くは身内）を過度に守ろうとする、虐待されている事実を隠そうとする、あるいは、戻れば虐待されるとわかっているのに加害者のところに戻ろうとするなど、援助職者からすれば不可解な状況が多々あります。そのような共依存ケースにどのように対応したらよいかという問題は、援助職者の大きな課題の一つです。少なくとも共依存という概念や切り口をもって解釈することで、了解不能な現象が了解可能な事実となります。

～会員の活動～ 大阪高齢者虐待防止研究会 100 回記念を終えて

津村智恵子(大阪高齢者虐待防止研究会代表・甲南女子大学教授)

児童虐待防止活動は大阪から全国に広まったが、高齢者虐待は児童虐待以上に多いと予測されることから、「高齢者虐待防止研究会」を平成6(1994)年に発足させました。参加者の関心の高さが本研究会を支え、当初は海外・国内の高齢者虐待文献・資料の勉強会を中心に要介護高齢者・家族の人権擁護と虐待事例の検討会などを2カ月に1回程度、出入り自由な研究会として平成24(2012)年3月24日迄の18年間に100回の定例研究会を開催してきました。初期の頃の参加者は大阪府下を中心に京都、奈良、滋賀、和歌山など、近畿一円から主に保健所・市町村等行政の保健師や社会福祉士などでした。毎年、本研究会では、大学と現場行政機関、保健福祉施設等と一緒にチームを組み、高齢者虐待マニュアル作成、あるいは高齢者虐待研究に取り組み、学会発表と併せ本研究会の場などで先駆的な研究発表を行ってきました。

平成17年11月に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が制定されたその翌年には、本研究会が第3回日本高齢者虐待防止学会大阪大会の開催を引き受け、今後最も困難な高齢者虐待問題になると予測される「セルフ・ネグレクトを防ごう」をテーマに取り上げました。今、セルフ・ネグレクトは中高年齢層を襲う中心的課題の一つで、国も地方行政も高齢者虐待防止、対処に向け積極的に動きだしています。この喜ばしい状況から、私たちの研究会活動は役割を果たしたと「研究会18年間のあゆみ」を報告書に綴じ、研究会の幕を閉じることに致しました。

今日まで支えて下さいました関係者の方々に深謝致します。

～事務局だより～

日本高齢者虐待防止学会(JAPEA)の新事務局体制について

事務局長 山田祐子（日本大学文理学部社会福祉コース）

2012 年度より、学会の事務体制は大きく変わります。これまで業務委託をしてきた学会事務センター「ワールドプランニング」とは 2012 年 3 月をもって完全に契約終了となり、当面は以下のような体制ですすめたいと思います。

■論文投稿：株式会社 勁草書房 コミュニケーション事業部 梅澤桃子 宛

〒112-0005 東京都文京区水道 2-1-1

TEL 03-3814-7114 FAX 03-3814-6904 E-mail japea@keiso-comm.com

■投稿・お問い合わせ：横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科 松下年子研究室

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 TEL&FAX 045-787-2774 E-mail toshiko@yokohama-cu.ac.jp

■会費納入・住所変更およびお問い合わせ：大阪アドボカシー法律事務所 学会事務係

〒530-0047 大阪市北区西天満 6-1-2 千代田ビル別館 2 階 Tel:06-6365-8777 Fax:06-6365-8770

郵便振替口座番号:00180-5 333723

加入者名 : 日本高齢者虐待防止学会

■上記以外のお問い合わせ：本部事務局

日本大学文理学部（社会福祉）山田祐子研究室 日本高齢者虐待防止学会事務局

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

Tel&Fax : 03-5317-8987, E-mail ryuno@chs.nihon-u.ac.jp

■学会ホームページアドレス : <http://www.japea.jp/>

学会事務の事務委託等については、予算規模にあった見直しの必要に迫られ、当面は、いわば「手弁当」体制で運営していくことになりました。仕事をもちながらの業務になりますので、不十分な点が多々あるかと思いますが、努力してまいりますので宜しく御協力のほどお願い申し上げます。学会の明るい未来と発展を目指し、運営の合理化と簡素化を図り、透明性のある民主的な運営は勿論のこと、継続的、安定的運営が行われるように体制を整備してまいり所存です。

委員会の運営につきましては、交通費支給の関係から、首都圏の会員を中心に組織化し、全国の会員の皆様には、査読委員等や、学会の事業運営の際にお声かけさせていただきますので、是非とも御協力ください。今年度は学会設立 10 年目、来年度には 10 周年記念学術大会が行われます。引き続き宜しくお願い申し上げます。

～編集後記～

★・・・年会費未納の方へ・・・★

会計年度は4月～翌年3月です

正会員年会費 8,000円

賛助会員年会費 20,000円

学生会員年会費 4,000円

★・連絡先等を変更された方へ・★

住所・勤務先等に変更があった方

は、事務局へお知らせ下さい。

ニューズレター通巻 11 号は、第 9 回の神戸大会の最新のご案内がメインの記事となる予定でしたが、思いがけず、4 月に多々良先生がご逝去され、追悼号の形になりました。

池田直樹新理事長のもと、理事会体制も組織され、事務局体制も整備されてきました。今後、学会の発展が期待できるものと確信しています。皆さまからのご投稿、ご意見をお待ちしております。（高崎）